

2019.7.16

総合計画審議会  
専門部会資料

資料第2号

# 2040問題の視点と まちづくり構想について

総合政策局 都市政策課



# 2040年を見据えて今から取り組むことを考える

2040年

更なる人口減少、少子高齢化社会の到来

## 共通する課題

インフラ・公共施設の老朽化

都市部人口の低密度化

医療、介護ニーズの増

労働力の減少

など

## 本市の特徴等

ファミリー世帯の転出超過

20歳代が転入超過

年少人口(0-14歳)比率が低い

人口密度が高い

学力向上が課題

持ち家世帯比率が低い

社会福祉協議会加入率の低下

交通利便性が高い

単身高齢者率が高い

将来負担比率が高い

歳出のうち扶助費の割合が高い

環境モデル都市として取組を推進中

高い技術力を持つ企業の産業集積がある

など

## 現在の取組 (2019年度主要事業)

「ファミリー世帯の定住・転入促進」に向けて

教育

子育て

住宅

「シチズンシップの向上とシビックプライドの醸成」に向けて

観光地域づくり

地域力を支える体制づくり

「行政運営」として

持続可能な行財政基盤の確立

ファシリティマネジメントの推進

本市が2040年に向けて、これから取り組むべき視点や優先する視点

## 《参考》「ありたいまち」に向けて～現まちづくり構想～

### ありたいまちを考える背景

少子化・高齢化の進行

安定した就労が重要

地理的な優位性と高い技術力を持つ企業等の産業集積がある

深刻な公害問題を改善させてきた実績がある

世帯構成の変化、コミュニティの希薄化

健康で自立した暮らしが社会保障制度の維持にもつながる

介護や環境配慮へのニーズにより新たな雇用が生まれる

財政状況の構造的な悪化が深刻な状況

情報技術の発達等により、地域の魅力を高める情報として編集、発信が可能

都市基盤や公共施設が次々と修繕・更新時期を迎える

### 方向性

社会や地域での支え合いができる環境が必要

生活の質を守り、市民の健康、安全・安心を守ることが必要

雇用・所得・消費を創出し、まち全体の活力を生み出していくことが必要

よりよい生活環境の創出に取り組んでいくことが必要

互いに交流できる環境が必要

安定した仕事に就き、健康を保ちながら働くことができるまちを実現することが重要

活力と魅力のある、住みたい、住んでみたいと思えるまちにしていくことが必要

将来世代に問題を先送りしない積極的な取組が必要

活動を支える人を育てることが重要

都市基盤や公共施設は、市民生活の質的な向上をめざした再配置、維持・更新を進める中で、機能向上が必要

人が育ち、互いに支えあうまち

健康、安全・安心を実感できるまち

地域の資源を活かし、活力が生まれるまち

次の世代に、よりよい明日をつないでいくまち